

平成二十五年年度日蓮宗現代宗教研究所彙報

研究員・顧問・嘱託名簿 (平成二十六年二月一日現在)

〔研究員〕

東京 妙圓寺修徒	坂輪宣政
東京 常圓寺修徒	古河良啓
千葉 本休寺住職	岩田親靜
千葉 實相院修徒	蓮見高円
栃木 等覚院住職	藤崎善隆
山梨 円明寺住職	小林康洋
新潟 蓮昌寺住職	鈴木是妙
新潟 法顕寺修徒	池浦英晃
新潟 妙法寺寄在	小瀬修達
石川 妙相寺住職	河崎俊宏
福井 大蓮寺住職	中村龍央
京都 瑞光寺修徒	川口智徳
京都 常徳寺住職	鶏内泰寛
島根 妙覚寺修徒	マコーミック龍英

〔顧問〕

千葉 妙弘寺住職	田澤元泰
千葉 龍蔵寺修徒	蓑輪顕量
埼玉 本応寺住職	星光諭
静岡 本光寺住職	石川浩徳
三重 顕本寺前住職	伊藤如顕
福岡 眞浄寺前住職	中村潤一
岩手 本増寺住職	木村勝行
福岡 妙法寺修徒	延本妙泉
熊本 宗覚寺修徒	山口功倫
山形 常信寺修徒	大山乘文
秋田 法華寺修徒	齋藤宣裕
北海道 護国寺住職	原一彰

【嘱託】

神奈川	千葉	千葉	千葉	山梨	イタリ	愛知	愛知	福井	兵庫	広島	香川	宮城
県	県	県	県	県	ア	県	県	県	県	県	県	県
善行寺	法蓮寺	妙国寺	昌柏寺	立本寺	新開教地担当	大光寺	妙本寺	蓮尚寺	蓮正結社	妙正寺	宗泉寺	法運寺
修徒	前住職	住職	修徒	住職		修徒	住職	修徒	教導	住職	修徒	住職
灘上	山田	馬渡	伊藤	石原	タラビーニ勝亮	村瀬	馬島	野村	松田	柴田	成田	梅森
智生	孝行	竜彦	康裕	顕正		正光	浄圭	佳正	英秀	章延	東吾	寛誠

人事

平成二十四年四月一日

臨時詰め採用

宮崎県立正寺修徒 森下 恵王

六月一日

退職

主 事 補 山口 功倫

七月一日

現宗研配属

書 記 森下 恵王

平成二十五年三月三十一日

任期满了

現宗研研究員 坂輪 宣政

古河 良啓

現宗研研究員

小林 康洋

石川県妙相寺住職

河崎 俊宏

〃

河崎 俊宏

福井県大蓮寺住職

中村 龍央

〃

中村 龍央

鳥根県妙光寺修徒

マコトミツク龍英

〃

高平 妙心

福岡県妙法寺修徒

延本 妙泉

〃

松森 孝雄

熊本県宗覚寺修徒

山口 功倫

〃

石伏 叡齋

秋田県法華寺修徒

齋藤 宣裕

〃

延本 妙泉

北海道護国寺住職

原 一彰

〃

塩入 幹丈

〃

齋藤 宣裕

四月八日

〃

原 一彰

遷化

現宗研顧問

新聞 智照

四月一日

研究員委嘱

東京都妙圓寺修徒

坂輪 宣政

東京都常圓寺修徒

古河 良啓

千葉県實相院修徒

蓮見 高円

山梨県円明寺住職

小林 康洋

新潟県蓮昌寺住職

鈴木 是妙

新潟県法顕寺修徒

池浦 英晃

十二月十九日

教務部へ転属

主 事

櫻井 義久

辞職

現宗研所長

三原 正資

任期满了

現宗研顧問

田澤 元泰

現宗研顧問

十二月二十日

兵庫県蓮正結社教導 松田 英秀

星 光諭

所長就任

広島県妙正寺住職 柴田 章延

石川 浩徳

広島県妙長寺住職 三原 正資

香川県宗泉寺修徒 成田 東吾

伊藤 如顕

宮城県法蓮寺住職 梅森 寛誠

中村 潤一

平成二十六年一月十六日

木村 勝行

顧問委嘱

二月五日

現宗研嘱託

顧問委嘱

任期満了

灘上 智生

千葉県妙弘寺住職 田澤 元泰

現宗研研究員 鶏内 泰寛

山田 孝行

千葉県龍蔵寺修徒 蓑輪 顕量

馬渡 竜彦

埼玉県本応寺住職 星 光諭

伊藤 康裕

静岡県本光寺住職 石川 浩徳

石原 顕正

福岡県眞浄寺前任住職 中村 潤一

村瀬 正光

神奈川県善行寺修徒 灘上 智生

馬島 浄圭

千葉県法蓮寺前任住職 山田 孝行

野村 佳正

千葉県妙国寺住職 馬渡 竜彦

松田 英秀

千葉県昌柏寺修徒 伊藤 康裕

柴田 章延

山梨県立本寺住職 石原 顕正

成田 東吾

愛知県妙本寺住職 馬島 浄圭

梅森 寛誠

福井県蓮尚寺修徒 野村 佳正

クラブ・ニ勝亮

嘱託委嘱

研究・調査分担一覧

―順不同、敬称略、◎は代表、○は副代表―

〔共通テーマ〕

三・一 後の立正安国

1. 現代教化学部門 ◎灘上智生 ○原一彰

○現代教化学研究〔「お題目の違い」ブックレット〕

○国内宗教研究Ⅰ〔創価学会・興門系教団〕

○生命倫理〔iPS細胞〕

○自然科学と仏教

○原発と教化学〔環境問題〕

○海外宗教研究

古河良啓・岩田親静・伊藤康裕

小瀬修達・大乘文晴

藤崎善隆・村瀬正光

蓮見高円・灘上智生

齋藤宣裕・原一彰・野村佳正・梅森寛誠

川口智徳・マコーミック龍英・タラビーニ勝亮・馬島浄圭

2. 現代教団部門 ◎柴田章延 ○小林康洋

○社会と宗教（人権）

○日蓮宗の寺院婦人

○過疎地寺院

○寺院と危機管理（防災・震災）

○国内宗教研究Ⅱ〔葬送儀礼の民俗的研究〕

○IT〔中央教化センター機能・相互ウェブ会議・現宗研HP〕

鈴木是妙・鶏内泰寛

延本妙泉・山田孝行・松田英秀

河崎俊宏・池浦英晃・馬渡竜彦

小林康洋・石原顕正

坂輪宣政・柴田章延

中村龍央・山口功倫・成田東吾

3. 日蓮宗近現代史〔日蓮宗アーカイブズ〕

坂輪宣政・中村龍央・山口功倫・柴田章延・成田東吾

高橋延定・工藤信人

4. 宗勢調査特別PT

岩田親靜・池浦英晃・原一彰・灘上智生

5. 墓地使用約款特別PT

古河良啓・藤崎善隆・小林康洋・馬渡竜彦

6. 教研会議と教化センター

古河良啓・藤崎善隆・小林康洋・河崎俊宏

中村龍央・鷄内泰寛・大乘文晴・原一彰

灘上智生・馬渡竜彦・石原顕正・馬島浄圭

松田英秀・柴田章延・梅森寛誠

7. 創立五〇周年企画会議 ◎中村龍央 ○河崎俊宏

田澤元泰・石川浩徳・灘上智生・柴田章延

小林康洋・河崎俊宏・中村龍央・原一彰

8. 研究例会 ◎中村龍央 ○河崎俊宏

坂輪宣政・古河良啓・岩田親靜・蓮見高円

藤崎善隆・小林康洋・鈴木是妙・池浦英晃

小瀬修達・河崎俊宏・中村龍央・川口智徳

鷄内泰寛・延本妙泉・山口功倫・大乘文晴

齋藤宣裕・原一彰

9. 顧問会

田澤元泰・蓑輪顕量・星光諭・石川浩徳

伊藤如顕・中村潤一・木村勝行

平成二十五年事業報告

1、教化研究会議

〔1〕第四十六回中央教化研究会議

期 日 平成二十五年九月四日(水)・五日(木)

会 場 品川プリンスホテル

東京都港区高輪四一〇―三〇

参加人数 一二六名

資料展示 教区教研や教化センターが作成・発行し

た教化資料・発行物の展示を実施。

テーマ 3・11後の「立正安国」を考える―復興

の教化学の構築のためにⅡ

開催趣旨(開催要綱原文のまま)

東日本大震災から、二年余を経過しました。

「3・11」が提起した問題がほとんど何一つ解決

されないままに、早くも「3・11」の風化を感じ

ざるを得ない、というのが、実情ではないかとも

感じられます。

平成二十四年末の総選挙では、脱原発を掲げた政党が軒並み敗れ、あれだけ盛り上がりつつあったかに見えたエネルギー問題を巡っての国民的議論もいつのまにか尻すぼみになってしまった感が否めません。

原子力規制委員会は七月十八日にも「新規制基準」を施行すると言われ、その後は、安全が確認された原発から順次再稼働されるものとも見込まれており、秋以降、大飯原発以外の原発も再稼働され始めると予想されています。

また、安倍晋三首相は、五月の中東歴訪で、アラブ首長国連邦と原子力協定を結んで我が国からの原発輸出を可能にし、更にトルコとは、トルコ国内の原発プロジェクトに関する原子力協定を締結し、トルコが二〇二三年までに計画している原発四基の建設について、三菱重工と仏原子力大手

アレバによる受注を確定させました。更に、六月の東欧歴訪に於いても、同様の原発輸出が展開されると推量されます。

もちろん、原発を是とすることにも相応の道理があるわけですが、昨年の中央教研の開催趣旨でも申し上げたように、エネルギーの問題は私たちの生き方自体の問題なのであり、如何なる結論を得るにせよ、フクシマを経験した私たちの未来の選択が、なし崩しのような形で進展して行くのは、望ましいこととは言えないでしょう。

原発・エネルギーの問題を、上述の通り、如何に生きるかの問題であると捉えた上で、私たち日蓮宗教師は、それをどう考え、如何に伝えて行くべきなのでしょう。

現代宗教研究所では、昨年、教区の教化研究会議に於いて、この問題をテーマとして採用されることを提案しました。幸いに、教区内に原発が存在しない教区から、原発銀座と呼ばれる地域を含む教区に至るまで、五つの教区でそれに応じた教

研会議が開催され、また予定されています。

本年の中央教研では、こうした教区教研会議での議論を共有し、本宗に於ける原発・エネルギー問題に対する姿勢を、教化学としてより一層深化せしめ、明確化する機会にしたいと考えます。

原発問題をテーマとする教研会議開催教区の代表による基調報告に引き続き、現宗研所長三原正資による、大震災以来、被災の現場、各地の原発、そして六ヶ所村などの現地調査を重ねた上での「原発と立正安国」と題する基調講演を行った上で、四つの分科会に分かれて多角的な観点からの問題提起と討議を行い、立正安国と原発・エネルギー問題について改めて考える機会とし、出来得れば中央教研としての宣言文を採択したいと考えます。

更に、明年四月、現宗研は昭和三十九年の創立以来五十周年を迎えることから、記念座談会として、歴代の所長、主任にお集まり頂き、本宗の教化学の現在と未来について、大いに語り、考えま

す。

開催方式

① 基調報告「原発をこう考える」教区教研会議報告」

原発問題をテーマに教研会議開催の教区代表

北関東教区・山静教区・中部教区・北陸教区・東北教区

② 基調講演「原発と立正安国」

三原正資（日蓮宗現代宗教研究所長）

③ 基調報告、基調講演を問題提起として、テーマに関連した左記の四分科会を開催します。

I 現代教化学部門「1」

震災天罰論再考

II 現代教化学部門「2」

原発と宗教者

III 現代教団部門「1」

福島の現在・未来の福島

IV 現代教団部門「2」

被災者支援の方法を考えるII〜もし、自分

の寺が避難所になったら

④ 全体会議で四分科会の報告を聞き、テーマ

「3・11後の『立正安国』を考える」復興の化学の構築のために」にそくしてまとめると

もに、この問題についての決議文を採択します。

⑤ 現宗研創立五十周年記念座談会

「現宗研の五十年と教化学の現在」

三原正資（現宗研所長）

石川浩徳（現宗研元所長・現宗研顧問）

田澤元泰（現宗研前所長・現宗研顧問）

木村勝行（現宗研元主任・現宗研顧問）

渡邊宝陽師（現宗研元主任・日蓮宗勸学院長）

遠藤教温師（現宗研元主任）

内山堯邦師（現宗研元主任）

赤堀正明師（現宗研元主任）

影山教俊師（現宗研元主任・現宗研元顧問）

司会 高佐宣長（現宗研主任）

⑥ 各教区教研会議報告書や討議資料、管区並びに教化センターで作成された教箋等の教化資料を

展示し、教化情報のコーナーで宣伝します。各

寺院教会結社や個人有志で発行のものは、各管

区（教化センター）に委託してください。

参加者

教区教研運営委員、或いは内容に関心がある教師。

【2】教区教化研究会議

十一教区にて開催。日時・テーマは次の通り。

●第三十三回九州教区教化研究会議

平成二十五年六月十日～十一日

宮崎・鹿児島・沖縄県 シーガイア・コンベンシ

ョンセンターにて

基調講演「無縁社会と仏縁社会」

岡田真美子氏（兵庫県立大学環境人間

学部教授）

3分散会

全体会議

●第三十七回中四国教区教化研究会議

平成二十五年六月二十四日～二十五日

愛媛県 ホテルJALシティ松山にて

テーマ「僧侶の資質」―何が必要でどこが悪い

のか？」

基調講演「世間は僧侶に何を求めているか」

小谷みどり氏（第一生命経済研究所）

8分散会

全体会議

●第四十三回近畿教区教化研究会議

平成二十五年七月三日

大阪府和泉 ホテルサンルート堺にて

テーマ「お寺さん、このままでいいの？」―

僧侶のつばやき―

基調講演「「お寺さん、このままでいいの？」―

一僧侶のつばやき―

清瀬常童師（千葉県本山日本寺貫首）

4分科会

第一分科会「これからの寺院のあり方」

第二分科会「これからの僧侶とは」

第三分科会「これからの教化のやり方」

第四分科会「これからの宗教のあり方」

全体会議

●第三十七回北海道教区教化研究会議

平成二十五年八月二十八日 北海道南部

札幌プリンスホテル・国際館パミールにて

テーマ「食の大切さ」

基調講演「命をつなぐ食」

西村淳氏（オーロラキッチン創設者・

南極料理人・元海上保安官）

基調講演「障がい者による授産作業で開発した缶

詰パン」

浅野本陽師（北海道本昭寺住職・江差

福祉会理事）

東洋水産見学

全体会議

●第三十一回東北教区教化研究会議

平成二十五年十月九日～十日

秋田県 秋田キャッスルホテルにて

テーマ「東日本大震災に学ぶ」～僧侶としてこ

れまでどう向き合い、これからどう活か

していくか～」

基調講演Ⅰ「東日本大震災を経験して～避難所と

救援活動への支援～」

木村匡宏師（岩手県蓮久寺住職）

基調講演Ⅱ「お寺の避難所としての役割とその後

の支援活動について」

谷川海明師（宮城県法音寺修徒）

基調講演Ⅲ「原発事故。これまでとこれから」

瀬戸隆寿師（福島県妙勝寺修徒）

3分散会

全体会議

パネルディスカッション

●第三十七回中部教区教化研究会議

平成二十五年十月二十二日

愛知県三河 刈谷市産業振興センターにて

テーマ「現代社会における寺院・僧侶の役割」

―寺院の活性化―

基調講演「立正安国」のために―教師、お寺、

地域のこれからを考える―

三原正資師（現代宗教研究所長）

3分科会

第一分科会「若い世代へのアプローチ」

第二分科会「お寺コンペ」

第三分科会「供養・葬儀」

全体会議

●第三十回北陸教区教化研究会議

平成二十五年十一月七日

福井県南部 サンホテルやまねにて

基調講演「「ゲンパツと立正安国」～原発立地地

域の現状と問題に宗教者ができること

～」

三原正資師（現代宗教研究所長）

2分散会

全体会議

●第三十八回山静教区教化研究会議

平成二十六年二月六日

山梨県第四部 ベルクラシック甲府にて

テーマ「3・11後の「安穩な社会作り」のための

僧侶の役割 地涌の菩薩の自覚を問う～

真の救済を考える～」

基調講演「原子力社会からの脱却―個人文明主義

を超えて―」

中屋敷宏氏（弘前大学名誉教授）

3分科会

第一分科会「「原発と命について」～仏教の生命

観から見直す～

第二分科会「「原発を必要とする現代社会につい

て」～僧侶の考える3・11後の社会

～」

第三分科会「「安穩な社会とは」～宗教者の示す

幸福～」

全体会議

●第二十回北関東教区教化研究会議

平成二十六年二月十九日

茨城県 ホテルグランド東雲にて

テーマ「「原発と立正安国」～復興の教化学の構

築のために～」

基調講演 「「原発と立正安国」～原発問題を如何

に捉え、如何に伝えるべきか」

高佐宣長師（現代宗教研究所主任）

分散会

全体会議

●第三十回千葉教区教化研究会議

平成二十六年二月二十五日

千葉県東部 成田エクセルホテル東急にて

テーマ「人口減少社会における寺院の役割～過疎

と寺院」

基調講演 櫻井義秀氏（北海道大学大学院教授）

3分散会

全体会議

●第三十八回京浜教区教化研究会議

平成二十六年二月二十七日

東京都北部 浅草ビューホテルにて

テーマ「首都直下地震 検証・寺院の備えと役割

― 防災・備災 如何に使命を果たすのか

―

基調講演1 「寺院に求められる帰宅困難者対策に

ついて」

東京都総務局総合防災部

基調講演2 「地域防災における寺院の役割」

久田嘉章氏（総合研究所・都市減災

研究センター長）

基調講演3 「寺院備災ガイドブック」について」

自覚大道師（曹洞宗僧侶・公益社団

法人シヤンテイ職員）

ワークショップ

【3】 研究集会

●千葉県西部教化化学研究集会

平成二十六年二月十八日～十九日

千葉県西部 長生郡ホテルカアナパリにて

テーマ「『大曼荼羅考察』～みんなで大曼荼羅」

本尊をつくろう」

分散会（フリーセッション）

全体会議

2、研究・調査活動

【1】 下記の各プロジェクトチームにおいて、それぞれ研究・調査を進めた。

●現代教化学部門

〔古河良啓・岩田親静・蓮見高円・藤崎善隆・小瀬修達・川口智徳・マコーミック龍英・大乘文晴・齋藤宣裕・原一彰各研究員、灘上智生・伊藤康裕・タラビーニ勝亮・村瀬正光・馬島浄圭・野村佳正・梅森寛誠各嘱託〕

① 現代教化学研究（「お題目の違い」ブックレット）

② 国内宗教研究Ⅰ（創価学会・興門系教団）

③ 生命倫理（i P S細胞他）

④ 自然科学と仏教

⑤ 原発と教化学（含環境問題）

⑥ 海外宗教研究

●現代教団部門

〔坂輪宣政・小林康洋・河崎俊宏・鈴木是妙・池浦英晃・中村龍央・鶏内泰寛・延本妙泉・山口功倫

各研究員、山田孝行・馬渡竜彦・石原顕正・松田英秀・柴田章延・成田東吾各嘱託〕

① 社会と宗教（含人權）

② 日蓮宗の寺院婦人

③ 過疎地寺院

④ 寺院と危機管理（防災・震災）

⑤ 国内宗教研究Ⅱ（葬送儀礼の民俗的研究）

⑥ I T（中央教化センター機能・相互ウェブ会議・現宗研HP）

●日蓮宗近現代史（日蓮宗アーカイブズ）

〔坂輪宣政・中村龍央・山口功倫各研究員、柴田章延・成田東吾各嘱託〕

●宗勢調査特別PT

〔岩田親静・池浦英晃・原一彰各研究員、灘上智生嘱託〕

●墓地使用約款特別PT

〔古河良啓・藤崎善隆・小林康洋各研究員、馬渡竜彦嘱託〕

●教研会議と教化センター

(岩田親静・藤崎善隆・小林康洋・河崎俊宏・中村龍央・鶏内泰寛・大乘文晴・原一彰各研究員、灘上智生・馬渡竜彦・石原顕正・馬島浄圭・松田英秀・柴田章延・梅森寛誠各嘱託)

●創立五十周年企画会議

(小林康洋・河崎俊宏・中村龍央・原一彰各研究員、灘上智生・柴田章延各嘱託、田澤元泰・石川浩徳各顧問)

●研究例会

(坂輪宣政・古河良啓・岩田親静・蓮見高円・藤崎善隆・小林康洋・小瀬修達・河崎俊宏・鈴木是妙・池浦英晃・中村龍央・鶏内泰寛・川口智徳・延本妙泉・山口功倫・大乘文晴・齋藤宣裕・原一彰各研究員)

●顧問会

(田澤元泰・蓑輪顕量・星光諭・石川浩徳・伊藤如顕・新聞智照・中村潤一・木村勝行各顧問)

【2】公開研究会を開催した。

●十月三十日、第十四回日蓮宗化学研究発表大会

を宗務院に於いて開催した。

「『原発と宗教者』を考える」

齋藤宣裕師(秋田県法華寺修徒・現宗研究員)

「部落問題と宗教」

鶏内泰寛師(京都府常徳寺住職・現宗研究員)

「NPO法人『すまいる H I M E J I』事業に携わって」松田英秀師(兵庫県蓮正結社教導・現宗研嘱託)

「日蓮聖人の世界」

三谷祥祁師(大阪府観世音寺住職)

「檀信徒のあり方」

森近静子氏(広島県通安寺檀信徒)

「末法視点で宗教活動の現場を見直す」

森下龍浄師(長崎県日誠寺住職)

「千葉県南部宗務所管内寺院の過疎、過密についての研究」

遠藤了義師(千葉県大栄寺住職)

「宗勢調査にみる日蓮宗の現状と課題―地域社会との関わり」

岩田親静師(千葉県本休寺住職・現宗研究員)

現宗研究員)

「宗勢調査にみる日蓮宗の現状と課題―寺院の推

移と動向」池浦英晃師（新潟県法顕寺修徒・現

宗研究員）

「宗勢調査にみる日蓮宗の現状と課題―地域特性
から見えるもの」

原一彰師（北海道護国寺住職・現宗研究員）

「宗勢調査にみる日蓮宗の現状と課題―葬儀・寺
庭婦人を中心に」

灘上智生師（神奈川県善行寺修徒・現宗研嘱託）

「『さとり世代』と『小欲知足』」

高佐宣長師（東京都善行院住職・現宗研主任）

―特別発表―

「最新のカルト情報と日蓮宗の対応について」

楠山泰道師（神奈川県大明寺住職・日本脱カル

ト研究会常任理事）

●平成二十六年二月四日、第二十四回法華経・日蓮

聖人・日蓮教団論研究セミナーを宗務院に於いて

開催した。

テーマ「教団と原発―教団の意思表示を考える」

報告「日蓮宗と原発問題」

高佐宣長師（日蓮宗現代宗教研究所主任）

講演「真宗大谷派と原発問題」

武田未来雄師（真宗大谷派教学研究研究所研究
員）

「曹洞宗と原発問題」

竹内弘道師（曹洞宗総合研究センター主任
研究員）

「全日本仏教会と原発問題」

戸松義晴師（浄土宗総合研究所主任研究
員・全日仏前事務総長）

【3】研究例会

●研究員が各自のテーマに沿って研究・調査を行い、
研究発表を行った。発表テーマと発表者は次の通
り。

○「原発と教化学」

岩田親静師

○「震災に於けるICTの問題」

中村龍央師

○「東日本震災後の社会変化と宗教者の役割」

小林康洋師

○「被差別部落の起源に見る「旃陀羅が子なり」の一考察（Ⅱ）」
鶏内泰寛師

○「中央教研原発問題宣言文案について」

原一彰師

○「宗門内での布教戦力として見た寺院婦人」

延本妙泉師

○「大石寺教学における本因妙論について」

小瀬修達師

○「日蓮宗における海外開教の特徴とSGIの戦

略」
川口智徳師

【4】現地調査

●四月十九日、東京都日暮里善性寺に於いて中央教研、現地史跡調査を行った。

●五月八日、米海軍横須賀基地・海軍防衛大学校に於いて中央教研、現地調査を行った。

●五月十四日～十六日、青森県、秋田県に於いて中央教研、六ヶ所村・関連施設調査を行った。

●六月十一日～十二日、熊本県、鹿児島県に於いて中央教研、川内原発・水俣関連施設調査を行った。

●七月八日～九日、山口県、広島県に於いて中央教研現地調査を行った。

●七月十七日、東京ソラマチに於いて『～比叡山から始まる～ゆかりの寺たび展』を視察した。

●七月二十四日、東京都法立寺に於いて中央教研打合せを行った。

●九月十三日、千葉県常不軽寺に於いて過疎地域寺院調査を行った。

●九月十八日～十九日、島根県恵瑠寺に於いて過疎地域寺院調査を行った。

●十一月二十五日～二十六日、平成二十五年度研究員研修会議を行った。

3、出版・資料収集

【1】「現代宗教研究」第四十八号を編集し、配付予定。

【2】教団史研究資料の一つとして、各種資料より「平成二十四年日蓮宗年表」を作成し、配付予定。

【3】「現代宗教研究」別冊として、「教化学研究5」を作成し、配付予定。

【4】新宗教関係資料を収集し、保管した。

【5】各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。

【6】伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。

【7】今年度購入・寄贈図書のコンピュータ管理のため
の蔵書整理とデータ作成を行った。

4、研究交流・会議

【1】四月二十二日、真如苑友心院に於いて、「教団付
置研究所懇話会 第十二回年次大会」第二回実行
委員会」が開催され、出席した。

【2】五月十一日、大谷大学に於いて、「日本近代仏教
史研究会 第十二回研究大会」が開催され、出席
した。

【3】五月二十一日、宗務院に於いて、「教区教研連絡
会議」を開催した。各教区教研の前年度運営委員
代表と本年度運営委員代表、及び次年度運営委員
代表が出席して、前年度の報告と本年度の計画を
聞き、教研会議運営について話し合った。

【4】五月二十二日、宗務院に於いて、「教化センター
連絡会議」を開催した。会議では、各センター発
行の布教・教化・伝道資料の交換が行われると

もに、センター運営に関する問題点と各センター
間の交流推進について話し合った。

【5】六月二十二日、立正大学に於いて、「法華仏教研
究会 第三回公開講演会」が開催され、出席した。

【6】六月二十四日、真如苑現院に於いて、「教団付
置研究所懇話会 第十二回年次大会」第三回実行
委員会」が開催され、出席した。

【7】七月三十一日、全日本仏教会会議室に於いて、
「全仏社会人権審議会」が開催され、出席した。

【8】八月二十四日～二十五日、東洋大学に於いて、
「本化ネットワーク研究会 第九回夏季セミナー」
が開催され、出席した。

【9】八月二十九日、東京大学仏教青年会に於いて、
「宗教者災害支援連絡会 第十六回情報交換会」
が開催され、出席した。

【10】十月三日、真如苑現院に於いて、「教団付置研
究所懇話会 第十二回年次大会」が開催され、出
席した。

【11】十月五日、茂原市民会館に於いて、「民部阿闍梨

日向聖人第七百遠忌報恩法要記念講演会」が開催され、出席した。

【12】 十月五日、東洋英和女学院大学大学院に於いて、

「生と死」研究会 第十二回例会」が開催され、出席した。

【13】 十月二十五日～二十六日、立正大学に於いて、

「第六十六回 日蓮宗教学研究発表大会」が開催され、出席した。

【14】 十一月八日、セレニティーホールに於いて、「第

二回現代社会と信教の自由公 開講座」が開催され、出席した。

【15】 十二月七日、日本学術会議講堂に於いて、「公開

シンポジウム『3・11後の「いのち」を語る言葉を考える』」が開催され、出席した。

【16】 平成二十六年一月三十日、真宗大谷派宗務所に於

いて、「教団付置研究所懇話会 第十三回年次大会」第一回実行委員会」が開催され、出席した。

【17】 二月七日、TKPカンファレンスセンターに於い

て、シンポジウム「消費者の考える葬儀と埋葬の

かたち」が開催され、出席した。

【18】 二月九日、東京大学本郷キャンパス伊藤謝恩ホー

ルに於いて、シンポジウム「人生の最終段階のケア」が開催され、出席した。

【19】 二月二十二日、大正大学に於いて、「公益財団法

人国際宗教学研究所・宗教者災害支援連絡会共同主催公開シンポジウム「現代宗教とつながりの力」」が開催され、出席した。

【20】 二月二十四日、港区増上寺三縁ホールに於いて、

「浄土宗総合研究所公開シンポジウム「これまでの二十年、これからの二十年」」が開催され、出席した。

【21】 三月十三日、杉並区セレニティーホールに於いて、

「新宗連・宗教学者研究会 第二回公開シンポジウム「宗教学者と情報公開―現状と課題を考える―」」が開催され、出席した。

【22】 三月十四日、港区曹洞宗総合研究センターに於い

て、「生命倫理研究部会 第十四回研究交流会」が開催され、出席した。

5、講演

【1】第三十回京浜教区檀信徒研修道場

平成二十五年五月十三日開催 神奈川県大明寺

講演「法華経を生きる―日蓮聖人の値難色読―」

三原正資（現代宗教研究所長）

【2】第七三三遠忌お会式大法要 宗門運動第二期記念

講演会

平成二十五年十月二十七日開催 徳島県妙長寺

講演「敬いの心で安穩な社会づくり、人づくり」

三原正資（現代宗教研究所長）

【3】福岡県布教講習会

平成二十六年三月二十七日開催 福岡県日蓮聖人

銅像護持教会

講演「ゲンパツと立正安国」

三原正資（現代宗教研究所長）

平成二十六年度事業計画案

1、教化研究会議

●第四十七回中央教化研究会議

・期日 九月三日（水）・四日（木）の予定

・会場 宗務院

・教区教研運営委員や関心のある本宗教師の出席。

・運営会議を開き、内容を協議し、企画・運営などの

の要綱を決定する。現宗研創立五十周年に当たり

記念大会とする。会議資料を作成する。

●地域教化研究会議の開催運営

・全十一教区での開催運営。

・中央教研との関連を踏まえ、各教区・管区で教化

の現場に関連するテーマを企画し、教化研究の充

実を図る。

・教研運営委員と協議し、地域の独自性を加味し、

企画・準備・運営に取り組む。

2、研究部門

●日蓮教学の現代化。中央教研や教化学研究発表大会

の成果を踏まえ、研究員を中心に教学の現代化について研究を行う。

●教化学の研究。第十五回教化学研究発表大会を開催

し、教化のあり方、現代教化の方策を研究する。必

要に応じて、管区単位での教化学研究集会を開催する。

●教団論の研究。第二十五回法華経・日蓮聖人・日蓮

教団論研究セミナー（現宗研創立五十周年記念シン

ポジウムとして開催予定）を開催し、現代の諸問題

に対応した教団のあり方について研究をすすめる。

●新宗教研究。法華系新興教団を中心に、研究を行う。

●立正平和の研究。宗門運動「立正安国・お題目結縁

運動」における世界立正平和活動の問題を中心に研究

する。

●教団史研究。近代日蓮教団史について、他教団との

関わりを鑑みながら研究する。年次年表の作成。

●必要な研究調査のため、研究員・顧問・嘱託で分担

してプロジェクトチームを構成する。

● 研究例会。研究員各自のテーマをそれぞれの立脚点として、研究を継続し、成果を発表する。

● 現宗研ウェブサイトを「日蓮宗教師用サイト」と連動する。また、諸資料のデータベース化、各種事業の公開など新たな布教伝道方法を研究する。

● 「仏教各宗教化関係研究機関連絡協議会」「教団付置研究所懇話会」「日本近代仏教史研究会」等への参加。

● 「教団付置研究所懇話会」平成二十六年度年次大会の年番教団として実行委員の運営。

● その他

3、調査部門

● 法華系新興教団を中心として、他教団の活動を調査する。

● 過疎地域寺院活性化検討委員会・伝道部と連携を計りつつ、過疎地域寺院の実態調査を継続し、対策を検討する。

● 必要に応じてアンケート調査・現地調査を実施する。

● その他

4、資料部門

● 日蓮宗アーカイブズの作成。宗門の公式資料の収集整理保管。

● 各教化センターとの教化研究、布教資料などの交流を図り、収集に努める。

● 図書を購入し、コンピュータで蔵書を管理し、ウェブ上で検索できるシステムの構築につとめる。

● 視聴覚資料の購入・保管。

● 創価学会・顕正会など法華系新興教団に関する資料を収集し、保管する。

● その他各種教化資料を収集し、保管する。

● 「現代宗教研究」第四十九号の発行。

● 「平成二十五年日蓮宗年表」の発行。

● 教化シリーズの発行。

● その他

5、会議

● 教化センター連絡会議を開催し、教化センター間の交流、情報交換などを行う。

- 教区教化研究会議連絡会議を開催し、各教区の教研運営委員とともに各教区教研間の協力と調整を図り、一層の充実を目指す。
- 研究員会議・顧問会議・嘱託会議の開催。
- その他